

学校生活に慣れてくる時期、教師と子ども、子ども同士の人間関係をさらに深めていきたいものです。そのために、子どもをよく見て、思いをよく聴き、教師が自分のことばで語りかけたり、互いを認め合う関係づくりを進めたりしましょう。特に、学級開き後の1ヶ月間で学級での生活にはまりこめていない子どもに対して、その子にあった支援をしていきたいですね。



### <小学校>

#### 気持ちに寄り添いながら「聴く」

「先生、さっきね・・・」日々、様々なことを感じている子どもたちは、先生に伝えたいことがたくさんあります。そんな子どもたちの気持ちに寄り添いながら話を聴く先生に、子どもたちは安心感・信頼感をもちます。

#### 寄り添って聴くポイント

##### ☆まず表情で共感する

子どもがうれしそうな表情なら笑顔で、泣きそうな表情なら悲しそうな顔で

##### ☆途中で遮らずに、最後まで聴く

##### ☆最後はできるだけ笑顔で

「話してくれてありがとう」の気持ちを込めて



先生が話を大切に聴く姿は、子どもたち同士が聴き合う姿にもつながっていきます。自分から話すことが難しい子どもも思わず誰かに話したくなるような、温かな学級の雰囲気をつくり出していきたいものですね。

#### 遊びの中で育てる仲間意識

「子どもは遊びの天才」とは、よく言ったものです。子どもは遊ぶことが大好きで、創造的に、主体的に遊びます。

遊びに対するこのような思いを生かし、「みんなで遊ぶ時間」を学級活動に位置付けてみましょう。



**やること**：「みんなで遊ぶ時間」をつくろう

**いつ?**：朝の学級の時間など

**どのくらい?**：週1回でも、月1回でも、学級の実情に応じて

**ポイントは?**：みんなで楽しむために工夫できることや改善点を話し合った上で、遊ぶ活動を位置付けると仲間意識が高まります。遊びっぱなしにならないことが大切です。

### <中学校>

#### 学級で取り組む「ながのスポーツスタジアム」

今年も各校で**体力向上プラン2018**を作成していただきました。その中で1校1運動を位置付けていただいております。以下のような取組があります。

- ・チームジャンプや短縄
- ・コアトレーニングやサーキットトレーニング
- ・8の字跳び（ながのスポーツスタジアムに記録申請）等

その中でも、学級としての時間が限られている**中学校**においては、「ながのスポーツスタジアム」に参加していただいている学校も多く、昨年度は県内36校、延べ**14,745人**に参加していただきました。学級づくりに、仲間づくりに、是非ご活用ください。

↓スポーツ課ホームページより↓



(詳しくは各校体育主任の先生にお問い合わせください)

#### 生徒が活動の中心となり、みんなで支える学級

学級で行う委員会や係の活動では、班長や係長などになるチャンスがあります。中にはこうした役割が苦手な生徒もいますが、そこは先生の腕の見せ所。

- ▶ 班長や係長には活動の見通しがもてるように事前の指導をします。
- ▶ 周りの生徒にも活動の意義を理解できるようにします。

こうした指導で班長や係長を育て、周りの生徒には、「みんなで協力していく」という意識をもたせたいですね。

活動する中で、役割や進め方について学び、互いに支え合いながら活動を進める力が育まれていきます。

